

1

次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、商品に関する勘定は3分法によること。

- 香川商店では定額資金前渡法を採用することとし、小口現金として小切手 ¥60,000 を振り出して庶務係に渡した。
- 徳島商店から商品 ¥700,000 を仕入れ、代金はさきに支払ってある内金 ¥140,000 を差し引き、残額は掛けとした。
- 売買目的で高知物産株式会社の株式10株を1株につき ¥62,000 で買入れ、代金は買入手数料 ¥8,000 とともに現金で支払った。
- 帳簿価額 ¥800,000 の備品を ¥590,000 で売却し、代金は現金で受け取った。
- 愛媛商店に借用証書によって貸し付けていた ¥340,000 を、その利息 ¥17,000 とともに同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。
- 従業員の出張にさいし、旅費の概算額として ¥50,000 を仮払いしていたが、本日、従業員が帰店して旅費の精算をおこない、残額 ¥2,000 を現金で受け取った。

2

福岡商店の下記の取引について、

- 仕訳帳に記入して、総勘定元帳の売掛金勘定に転記しなさい。
- 売上帳・売掛金元帳に記入して、締め切りなさい。

ただし、i 商品に関する勘定は3分法によること。

ii 仕訳帳の小書きは省略する。

iii 元丁欄には、売掛金勘定に転記するときだけ記入すればよい。

取引

1月6日 佐賀商店から次の商品を仕入れ、代金のうち ¥400,000 は小切手#9を振り出して支払い、残額は掛けとした。

A品	700個	@¥500	¥350,000
B品	600個	〃〃450	¥270,000

12日 長崎商店に次の商品を売り渡し、代金の一部については下記の約束手形#5で受け取り、残額は掛けとした。

A品	400個	@¥750	¥300,000
B品	200個	〃〃600	¥120,000

No. 5 約束手形		長崎 4201 0149-042	
福岡県北九州市小倉南区富士見3-5-1 福岡商店 福岡 五郎 殿		支払期日 平成〇年2月12日	株式会社 全商銀行佐世保支店
収入印紙 200円 長崎	金額 ¥280,000	支払地 長崎県佐世保市	
上記金額をあなたまたはあなたの指図人へこの約束手形と引き替えにお支払いいたします 平成〇年1月12日 振出地 長崎県佐世保市吉岡町863-3 住所 長崎商店 振出人 長崎商店 長崎 一郎 (長崎)		支払場所	

19日 大分商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

B品	150個	@¥600	¥90,000
----	------	-------	---------

27日 大分商店に売り渡した上記商品の一部に品違いがあったので、次のとおり返品された。なお、この代金は売掛金から差し引くことにした。

B品	10個	@¥600	¥6,000
----	-----	-------	--------

28日 長崎商店から売掛金の一部 ¥100,000 を同店振り出しの小切手#4で受け取った。

3

鹿児島商店の次の取引を入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、必要な伝票に記入しなさい。ただし、不要な伝票は空白のままにしておくこと。

取引

- 6月/5日 商品売買の仲介をおこない、宮崎商店から手数料として ¥80,000 を現金で受け取った。(伝票番号 No. 46)
 〃 日 商品代金として熊本商店あてに振り出していた約束手形#17 ¥530,000 が支払期日となり、当店の当座預金口座から支払ったとの通知を取引銀行から受けた。(伝票番号 No. 78)

4

次の各問いに答えなさい。

- (1) 九州商店の次の勘定記録と当座預金出納帳から、(ア)と(イ)の金額を求めなさい。ただし、限度額を ¥500,000 とする当座借越契約を結んでいる。

当 座 預 金		当 座 借 越	
1/1 前期繰越	150,000	1/29 売掛金 (イ)	1/5 買掛金 30,000
29 売掛金	170,000		13 仕入 70,000

当 座 預 金 出 納 帳

平成〇年	摘 要	預 入	引 出	借 また 貸	残 高
/ /	前月繰越	150,000		借	150,000
5	博多商店に買掛金支払い 小切手#24		180,000	貸	(ア)
13	門司商店から商品仕入れ 小切手#25		()	〃	100,000
29	久留米商店から売掛金回収	270,000		借	170,000
31	次月繰越		170,000		
		420,000	420,000		

- (2) 沖縄商店(個人企業)の下記の損益勘定と資料によって、次の金額を計算しなさい。

a. 売上原価

b. 期首の負債総額

損		益	
12/31 仕入 ()	12/31 売上 8,730,000		
〃 営業費 2,810,000			
〃 支払利息 60,000			
〃 資本金 ()			
<u>8,730,000</u>	<u>8,730,000</u>		

資 料

i 期首の資産総額	¥6,500,000
ii 期末の資産総額	¥6,890,000
iii 期末の負債総額	¥2,720,000
iv 当期純利益	¥370,000

- (3) 次の各文の [] のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。

a. 総勘定元帳のすべての勘定の記録を集めると、借方の合計金額と貸方の合計金額は等しくなる。これは [ア] によるものである。

b. /会計期間の収益と費用の内容を示した報告書を損益計算書といい、これにより [イ] を明らかにすることができる。

1. 貸借対照表等式 2. 経営成績 3. 資本等式 4. 貸借平均の原理 5. 財政状態

5

四国商店(個人企業 決算年/回 /2月3/日)の決算整理事項は次のとおりであった。よって、

- (1) 精算表を完成しなさい。
 (2) 備品勘定と給料勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。

決算整理事項

a. 期末商品棚卸高 ¥850,000

b. 貸倒引当金 売掛金残高の2%とする。ただし、差額を計上する方法によること。

c. 備品減価償却高 ¥300,000

取得原価 ¥1,800,000 残存価額は零(0) 耐用年数は6年とし、定額法により計算し、直接法で記帳している。

$$\text{定額法による年間の減価償却費} = \frac{\text{取得原価} - \text{残存価額}}{\text{耐用年数}}$$

d. 現金過不足勘定の ¥7,000 は雑損とする。

e. 引出金勘定の ¥40,000 は整理する。

1

	借 方		貸 方	
a	小 口 現 金	60,000	当 座 預 金	60,000
b	仕 入	700,000	前 払 金(または前渡金)	140,000
			買 掛 金	560,000
c	有 価 証 券(または売買目的有価証券)	628,000	現 金	628,000
d	現 金	590,000	備 品	800,000
	固定資産売却損	210,000		
e	当 座 預 金	357,000	貸 付 金	340,000
			受 取 利 息	17,000
f	旅 費	48,000	仮 払 金	50,000
	現 金	2,000		

2 (1)

仕 訳 帳 1

平成 〇年	摘 要	元 子	借 方	貸 方
/ /	前期繰越高	✓	7,410,000	7,410,000
6	(仕 入) 諸 口		620,000	
	(当座預金)			400,000
	(買掛金)			220,000
12	諸 口 (売 上)			420,000
	(受取手形)		280,000	
	(売掛金)	4	140,000	
19	(売掛金)	4	90,000	
	(売 上)			90,000
21	(売 上)		6,000	
	(売掛金)	4		6,000
28	(現 金)		100,000	
	(売掛金)	4		100,000

総 勘 定 元 帳

売 掛 金 4

平成 〇年	摘 要	仕 子	借 方	平成 〇年	摘 要	仕 子	貸 方
/ /	前期繰越	✓	380,000	1 21	売 上	1	6,000
12	売 上	1	140,000	28	現 金	〃	100,000
19	売 上	〃	90,000				

(2) (注意) 売上帳・売掛金元帳は締め切ること。

売 上 帳

平成 〇年	摘 要	内 訳	金 額
1 12	長崎商店 約手・掛け		
	A 品 400個 @ ¥750	300,000	
	B 品 200〃 〃 〃 600	120,000	420,000
19	大分商店 掛け		
	B 品 150個 @ ¥600		90,000
21	大分商店 掛け戻り		
	B 品 10個 @ ¥600		6,000
31	総売上高		510,000
〃	売上戻り高		6,000
	純売上高		504,000

売 掛 金 元 帳

長 崎 商 店 1

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 ま た 貸	残 高
/ /	前月繰越	210,000		借	210,000
12	売り上げ	140,000		〃	350,000
28	回 収		100,000	〃	250,000
31	次月繰越		250,000		
		350,000	350,000		

大 分 商 店 2

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 ま た 貸	残 高
/ /	前月繰越	170,000		借	170,000
19	売り上げ	90,000		〃	260,000
21	売上戻り		6,000	〃	254,000
31	次月繰越		254,000		
		260,000	260,000		

3

入金伝票				No. 46			
平成〇年6月15日							
科目	受取手数料	入金先	宮崎商店 殿				
摘要		金額					
商品売買の仲介手数料			8	0	0	0	0
合計			8	0	0	0	0

出金伝票				No. _____			
平成〇年 月 日							
科目		支払先	殿				
摘要		金額					
合計							

振替伝票								No. 78							
平成〇年6月15日															
勘定科目				借方				勘定科目				貸方			
支払手形				5	3	0	0	当座預金				5	3	0	0
合計				5	3	0	0	合計				5	3	0	0
摘要		熊本商店あて約束手形#17 期日支払い													

4

(1)	ア	イ	(2)	a	b	(3)	ア	イ
	¥ 30,000	¥ 100,000		¥ 5,490,000	¥ 2,700,000		4	2

5

(1) 精算表
平成〇年/2月31日

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	675,000						675,000	
当座預金	1,598,000						1,598,000	
売掛金	2,700,000						2,700,000	
貸倒引当金		37,000		17,000				54,000
繰越商品	910,000		850,000	910,000			850,000	
備品	1,200,000			300,000			900,000	
支払手形		1,060,000						1,060,000
買掛金		1,349,000						1,349,000
前受金		265,000						265,000
資本金		3,600,000	40,000					3,560,000
引出金	40,000			40,000				
売上		9,517,000				9,517,000		
受取手数料		98,000				98,000		
仕入	6,343,000		910,000	850,000	6,403,000			
給料	1,464,000				1,464,000			
支払家賃	876,000				876,000			
消耗品費	68,000				68,000			
雑費	45,000				45,000			
現金過不足	7,000			7,000				
	15,926,000	15,926,000						
貸倒償却			17,000		17,000			
減価償却費			300,000		300,000			
雑損			7,000		7,000			
当期純利益					435,000			435,000
			2,124,000	2,124,000	9,615,000	9,615,000	6,723,000	6,723,000

(2) (注意) i 給料勘定の記録は、合計額で示してある。
ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

備品	6	給料	15
1/1 前期繰越 1,200,000	12/31 減価償却費 300,000	1,464,000	12/31 損益 1,464,000
	〃 次期繰越 900,000		
1,200,000	1,200,000		

(貸倒償却は、貸倒引当金繰入でもよい。)